

令和元年度  
自己評価

川 村 幼 稚 園  
川 村 小 学 校  
川村中学校・川村高等学校

# 令和元年度 自己評価

川村幼稚園

## 1 学校教育目標

豊かな「こころ」  
のびやかな「からだ」  
工夫する「あたま」

## 2 本年度の重点

- (1) 集団の中で伸びやかに
- (2) 始めの一步を緩やかに
- (3) 行事を通して健やかに

## 3 評価表

\* 評価基準 (A : 十分達成している B : おおむね達成している C : やや不十分である D : 不十分である)

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 幼稚園運営に関するもの	①組織運営	・ 学園経営理念、方針 ・ 職務分掌組織 ・ 職員会議等の運営	B	成果：学園経営計画が示され、目標が明確になり、指導計画に反映させることが容易となった。 課題：少数ではあるが、組織としての機能を保つ職務分掌としていく。
	②研究・研修	・ 研究組織、計画 ・ 保育改善への取組 ・ 研修会への参加	B	成果：夏休みの個人研修参加により、自己研鑽に励むことができた。 課題：職員間情報共通化のため、話し合いの充実を図る。
	③保健・安全管理	・ 保健計画、安全計画 ・ 安全点検 ・ 緊急時の対応	B	成果：定期的な安全点検の実施が日常化してきた。 各校と共に、AED実技研修やエビペン対応訓練などを実施した。 課題：緊急時等の対応マニュアルを見直し様々な角度からの訓練を行うよう設定していく。
	④情報管理・施設設備管理	・ 個人情報の管理保護 ・ 施設設備の管理 ・ 施設の有効活用	A	成果：個人情報の管理について、意識が高まり大きな問題もなく日々過ごしている。 課題：遊具等、施設設備の安全な活用ができる環境づくりに努めていく。
	⑤一貫教育	・ 保育公開の実施 ・ 幼稚園情報の発信 ・ 幼・小・中・高の連携	B	成果：幼稚園からの情報として、学園広報誌「黄鶴」や「鶴友」への提供に努めている。また、園だよりの充実を図った。 課題：小・中・高との連携を心がけてはいるが、年齢差が激しく、なかなか実践が難しい。
II 保育活動に関するもの	⑥保育目標・保育計画	・ 保育目標の周知 ・ 保育計画の作成 ・ 保育活動の評価	B	成果：学年・学級の幼児の実態に基づく指導ができた。(体操教室も充実し、園児も笑顔で参加している。) 課題：基本的な生活習慣の日々徹底に努めていく。
	⑦保育指導	・ 指導計画の立案 ・ 指導方法の工夫改善 ・ 評価、評定の工夫	B	成果：個々の研修が保育改善に活かされている。 課題：評価についても、今後更なる相互理解を深め、工夫・改善を進める。

Ⅲ その他	⑧三位一体の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との連携</li> <li>・幼児理解</li> <li>・コミュニケーション</li> </ul>	A	<p>成果：保護者との連絡（送迎の時の利用や電話等）が丁寧に、親身になって対応できた。</p> <p>課題：幼児理解を深め、保護者からの信頼をより深めていく。</p>
	⑨防災教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・避難訓練等の実施</li> <li>・伝達システム</li> </ul>	A	<p>成果：訓練後の反省が生かされ、安全への意識が高まり、様々な角度からの取り組みを行った。</p> <p>課題：避難訓練時の避難経路について再検討し、より安全・安心を確保する。</p>
	⑩給食指導等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心安全への対応</li> <li>・アレルギー対策</li> <li>・環境衛生の管理</li> </ul>	A	<p>成果：アレルギー対策は、学園の指針に基づき、確実に対応できた。</p> <p>課題：安全・安心な給食指導の充実に向けて、更なる工夫・改善に努めていく。</p>
	⑪保育後の活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育の運営</li> <li>・ASの運営</li> </ul>	B	<p>成果：多くの園児が、16時までの諸活動に楽しく取り組むことができた。固定化の傾向にあるが、利用者数も伸びている。</p> <p>課題：今後も保護者のニーズに応えられるよう、充実した活動を目指していく。</p>

#### 4 総合評価

- \* 年間保育計画に基づき、月間目標を柱とした学年・学級経営が推進され、職員の共通理解のもと、各学級で明確な目標に向かい日々の保育活動を推進することができた。
- \* 特色ある教育活動として、たくさんの行事を通して充実した年齢に即した活動を展開することができ、生き生きとした幼児の主体的な姿が見られた。特にキンダーファミリーパーティーでは、園児が喜々として活動していた。

#### 5 来年度の改善策

- \* 園児一人ひとりの成長の度合いを見極め、個々の成長を助長するような声掛けをはじめとする保育展開のさらなる向上を目指していく。先の見えない生活ではあるものの、動画配信に力を注ぎたい。
- \* 保護者の求めている保育形態を追求し、保育の充実、質の向上にあわせて、預かり保育・AS運営に力を注ぎ、保育者への信頼を高めるようにしていく。また、平成29年度から開始した「ウィズダムアカデミー目白校」を利用する度合いも増しているため、これまで以上に連携を確実なものとして、保護者からの信頼に応えていく。
- \* 令和元年度卒業記念としての、安全安心、かつ躍動的な園庭の遊具充実を図るよう工夫したい。

# 令和元年度 自己評価

川村小学校

## 1 学校教育目標

生き生きとした子（やさしい心）

健やかな子（じょうぶな体）

自ら学び自ら考える子（かしこい頭）

## 2 本年度の重点

(1) 英語教育（実技英語技能検定奨励）

(2) 水泳指導（6年間の目標設定）

(3) 情報教育（5年生ipad導入）

## 3 評価表

\*評価基準（A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である）

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営理念、方針 ・校務分掌組織 ・職員会議等の運営	B	成果：学校経営計画が示され、目標が明確になり、実践につながるようになった。 課題：今後も組織が活きて働く校務分掌の改善をしていく。
	②研究・研修	・研究組織、計画 ・授業改善への取組 ・研究会への参加	B	成果：目標（三本柱）が明確になったため教科等の各部会の話合いが円滑になった。 課題：オンライン授業を通して研究授業を増し授業の充実を目指す。
	③保健・安全管理	・保健計画、安全計画 ・安全点検 ・緊急時の対応	A	成果：定期的な安全点検およびヒヤリハットの実施により危険個所の指摘（修理）が増加した。 課題：緊急時の対応（通学班下校・不審者対応訓練・AED実技研修・エビペン対応訓練等）については、様々な取り組みがなされたが、引き続き力を注ぐ必要がある。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理保護 ・施設設備の管理 ・施設の有効活用	A	成果：個人情報の管理についての意識が、さらに向上した。 課題：メディアルームや情報機器の活用と、5年生、6年生のipad活用をより充実および活性化していく。
	⑤一貫教育	・学校公開の実施 ・学校情報の発信 ・小・中・高の連携	B	成果：小・中・高の連携が拡がり、英語科の取り組みなどの充実がなされた。 課題：小・中・高の連携の更なる充実を図ることにより内部進学者の増加を目指したい。
II 教育活動に関するもの	⑥教育目標・教育計画	・教育目標の周知 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価	B	成果：学校・学年・学級経営プログラムに基づく指導が強化した。 課題：基本的な生活習慣（挨拶、廊下歩行等）の徹底をさらに強化する。
	⑦教科指導	・指導計画の立案 ・指導方法の工夫改善 ・評価、評定の工夫	B	成果：研究授業及び東京都私立初等学校協会の研修が授業改善に活かされた。 課題：評価（通知表を含む）について、これからも工夫・改善に努めていく。
	⑧道徳・特別活動	・指導計画の立案 ・授業の充実 ・児童会活動の活性化	A	成果：月間目標を核として、講話等の関連した指導ができた。また、教科書の利用がなされた。 課題：道徳教育の評価等、校内で話し合い基準を定めた。

II 教育活動に関するもの	⑨ 蓼科学習	・ 指導計画の立案 ・ 指導内容の充実 ・ 指導方法の工夫改善	A	成果：各学年に応じた体験重視の特色ある教育活動の見直しをした。 課題：雨天時等、屋内でのプログラムの充実とより安全な活動の選別を検討した。
	⑩ 児童指導	・ 組織的な生徒指導 ・ 問題行動への対応 ・ 教育相談	B	成果：毎週実施される学年会での潤滑な情報交換が、年度を重ね、さらに有効活用されている。 課題：「学校のきまり」に沿って、共通理解のもと指導を進めていく。
III その他	⑪ 三位一体教育	・ 保護者との連携 ・ 児童理解 ・ コミュニケーション	B	成果：保護者との連絡（連絡帳や電話等）が丁寧に行われた。 課題：児童理解を深め、不登校のない学校生活を構築する。
	⑫ 英語教育	・ 指導計画の立案 ・ 各学年の実践 ・ 英検対策講座	A	成果：英検受験も励みとなり、英語活動への理解と関心が深まった。中学校内部進学特待生制度の利用者も輩出した。 課題：英語検定へのチャレンジ層を厚くしたい。
	⑬ 防災教育	・ 指導計画の立案 ・ 避難訓練等の実践 ・ 伝達システム	B	成果：訓練後の反省等が活かされ幼・小・中・高での不審者対応訓練学校安全も実施できた。小・中・高の40班による全校通学班下校訓練を行った。教室移動の際は、講堂行事にも必ず防災頭巾を持つよう徹底した。 課題：避難訓練時の避難経路については、再検討し万全な体制を構築する。
	⑭ 会食指導等	・ 安心安全への対応 ・ アレルギー対策 ・ 環境衛生の管理	A	成果：アレルギー対策は、家庭との協力を得て確実に対応できた。 課題：会食指導の充実に向けて教室内での指導を統一し、更なる工夫・改善に努める。
	⑮ 鶴友会活動等	・ クラブ活動の運営 ・ 放課後活動の運営 ・ ASの運営	B	成果：多くの児童が、諸活動に楽しく取り組むことができた。 課題：限られた時間の中で、充実した活動となるよう精選していく。より多くの参加者を募るよう努力を要する。

#### 4 総合評価

- \* 学校経営計画に基づく指導により、月間目標を柱とした学年・学級経営が推進され、各学級で明確な目標に向かって、それぞれの教員が、児童のための教育活動を推進することができた。
- \* 特色ある教育活動として、各学年での蓼科学習・情報教育・英語教育・水泳教育が充実し、児童の主体的活動を促す要素が整った。

#### 5 来年度の改善策

- \* 「学校のきまり」として、①学習習慣の確立 ②基本的な生活習慣の確立に向けてのきまりの徹底指導を日々重ね、さらに落ち着いた学校生活を目指す。
- \* 一人ひとりの笑顔が輝くよう、担任を中心に学年や教科担当と連携する中で児童理解をより一層深め、楽しい学校生活と保護者の信頼を不動のものとする。
- \* 放課後活動充実のため、平成29年度から開始した「ウィズダムアカデミー目白校」の利用者が増加していることを踏まえ、今後も連携に対する理解を推進し、安全な放課後の時間を提供していく。
- \* 算数セミナー（4・5・6年生希望制）と、英検対策講座を継続することによって、内部進学希望者数の確保に努める。
- \* 鶴友会クラブ（希望者の増加）と必修クラブの活動の更なる活性化を目指す。
- \* オンライン授業を行ったことで、6年間を見据えた情報教育カリキュラムの作成に繋げていきたい。
- \* 3年生以上の英語授業を週3時間とし、教材変更をしたことに対して、更に有効活用を行い英語科の強化に努める。

# 令和元年度 自己評価

川村中学校・川村高等学校

## 1 学校教育目標

豊かな感性と品格（豊かな心）

自覚と責任（自ら学ぶ心）

優しさと思いやり（美しい心）

## 2 本年度の重点目標

(1) 知・徳・体の調和の取れた教育の実践

(2) 三位一体の教育を実践

(3) 中高6年間を見通した教育の実践

(4) 一人ひとりを生かす教育の実践

(5) 進路を見据えた教育の実践

## 3 評価表

\*評価基準（A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である）

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・ 学校経営理念、方針 ・ 校務分掌組織 ・ 職員会議等の運営	A	成果：学校経営計画に基づき、方針について共通認識を持って運営にあたることができた。 課題：校務分掌の組織を活用して機能しているが、まだ改善の余地がある。
	②研究・研修	・ 研究組織、計画 ・ 授業改善への取り組み ・ 研究会への参加	B	成果：教員一人ひとりが授業改善への研鑽を積むことができた。 課題：研修会の周知はされているが、参加ができない状況であった。参加ができるよう工夫に努める。
	③保健・健康管理	・ 保健、安全計画 ・ 安全点検 ・ 緊急時の対応	A	成果：危機意識をもって保健指導が成された。 課題：安全点検に甘んずることなく、今後も引き続き様々な状況を想定して見直しを図っていく。
	④情報管理・施設設備管理	・ 個人情報の管理保護 ・ 施設設備の管理 ・ 施設の有効活用	B	成果：個人情報の管理については良好であった。行き届いた施設設備管理ができた。 課題：施設管理については、メンテナンスを必要とする箇所がいくつかあり、引き続き改善を図っていく。
	⑤一貫教育	・ 学校公開の実施 ・ 学校情報の発信 ・ 小・中・高の連携	B	成果：ホームページ等を通して情報の発信をすることができた。 課題：クラブ活動や算数セミナー等の実施により一貫校としての意義を再確認できたが、引き続き連携を図るべく検討していく。
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・ 教育目標の周知 ・ 教育計画の作成 ・ 教育活動の評価	B	成果：教育目標に基づき、教員一人ひとりが意識をして取り組んでいる。 課題：日々の学校生活の中で、生徒に自覚を促すよう工夫を凝らして指導する。
	②教科指導	・ 指導計画の立案 ・ 指導方法の工夫改善 ・ 評価、評定の工夫	B	成果：各教科で話し合いながら、授業の充実を図った。 課題：新しい教材やICTを活用して、深い学びとなるようにしていく。また、評価方法については引き続き検討・改善をしていく。

II 教育活動に関するもの	③道徳・特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・授業の充実</li> <li>・生徒会活動</li> </ul>	B	<p>成果：行事について、生徒の主体的な活動を実践していくことができた。</p> <p>課題：行事だけではなく、学校生活全般を活性化させるための主体的な活動を考えさせ、実践させていく。</p>
	④総合的な時間の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・指導内容の充実</li> <li>・指導方法の工夫改善</li> </ul>	A	<p>成果：学年毎のテーマに基づき、豊かな発想を導きプレゼンテーション力をつける指導ができた。</p> <p>課題：個々が問題意識を持って深い学びができるよう指導する。</p>
	⑤生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な生徒指導</li> <li>・問題行動への対応</li> <li>・教育相談</li> </ul>	B	<p>成果：学年会を通して、生徒一人ひとりへの共通理解をし、迅速な対応と指導ができた。</p> <p>課題：生徒の問題に対する共通理解と、寄り添った指導の充実を、一層図るよう努める。</p>
III その他	①三位一体の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との連携</li> <li>・生徒理解</li> <li>・コミュニケーション</li> </ul>	A	<p>成果：保護者との連携を図りながら、生徒一人ひとりへの指導ができた。</p> <p>課題：指導に対する保護者への理解を図り、スピーディーな対応をしていく。</p>
	②キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・中学3年生の実践</li> <li>・高校1年生の実践</li> </ul>	B	<p>成果：中3と高1では、系統立てたキャリア教育を実践することができた。</p> <p>課題：一貫校としての進路指導の充実および高校生の進路指導の充実を図っていく。</p>
	③防災教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の立案</li> <li>・避難訓練等の実践</li> <li>・伝達システム</li> </ul>	A	<p>成果：様々な想定に基づく訓練を、改善しながら実施することができた。</p> <p>課題：危機意識を持った訓練となるよう工夫をする。</p>
	④学校給食（会食）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全安心への対応</li> <li>・アレルギー対策</li> <li>・環境衛生の管理</li> </ul>	A	<p>成果：アレルギー対応が丁寧に、かつ正確に行われた。</p> <p>課題：配膳時を含めた会食指導への更なる充実を図っていく。</p>
	⑤鶴友会活動（部活動）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動の運営</li> <li>・クラブ活動の指導</li> <li>・クラブ合宿</li> </ul>	B	<p>成果：生徒の主体的なクラブ活動が行なわれていた。</p> <p>課題：外部指導者による技術指導によりクラブ活動の充実を図ると共に、活動日数や引率の適正化のもと、教員の負担を軽減していく。</p>
	⑥鶴友会活動（諸係）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸係の運営</li> <li>・活動内容の充実</li> <li>・活動内容の改善</li> </ul>	B	<p>成果：仕事内容について分担化を図って活動をしていた。</p> <p>課題：諸係の各部会や各リーダー会の実施により主体的な活動を指導する。</p>

#### 4 総合評価

- \* 教員全員が共通認識をもって各学年・学級目標に基づく指導ができた。
- \* 季節性インフルエンザなどの感染症に対する啓蒙指導が成され、学級閉鎖等の措置をすることなく、健康的な生活を送ることができた。
- \* 教員の共通理解のもと、改善を図りながら生徒の主体的な取り組みを支援することができた。
- \* 三位一体の教育を実践することができた。
- \* 年度末は、新型コロナウイルス感染拡大防止への対応を余儀なくされ、通常の学校業務や生徒対応に苦慮した。

#### 5 来年度への改善策

- \* 指導要領の改訂と大学入試制度改革に向けて、情報の収集と研修・研鑽を積んでいく。
- \* 授業の充実を図るため、授業改善を意識して研修と研鑽を積極的に行う。
- \* 小・中・高の連携を図ることで、一貫校としての特性を活かした教育の推進を図る。
- \* 一人ひとりの生徒が持つ能力の助長を図るための授業展開を行う。

- \* 鶴友会クラブならびに鶴友会諸係において、生徒の主体的な活動を支援する。
- \* 一貫校としての進路指導および高等学校の進路指導の充実を図る。
- \* 新型コロナウイルス感染拡大に伴うオンラインによる授業を実施したが、今後一層、IT機器を活用した授業の充実、および、教員一人ひとりのスキルアップを図っていく。